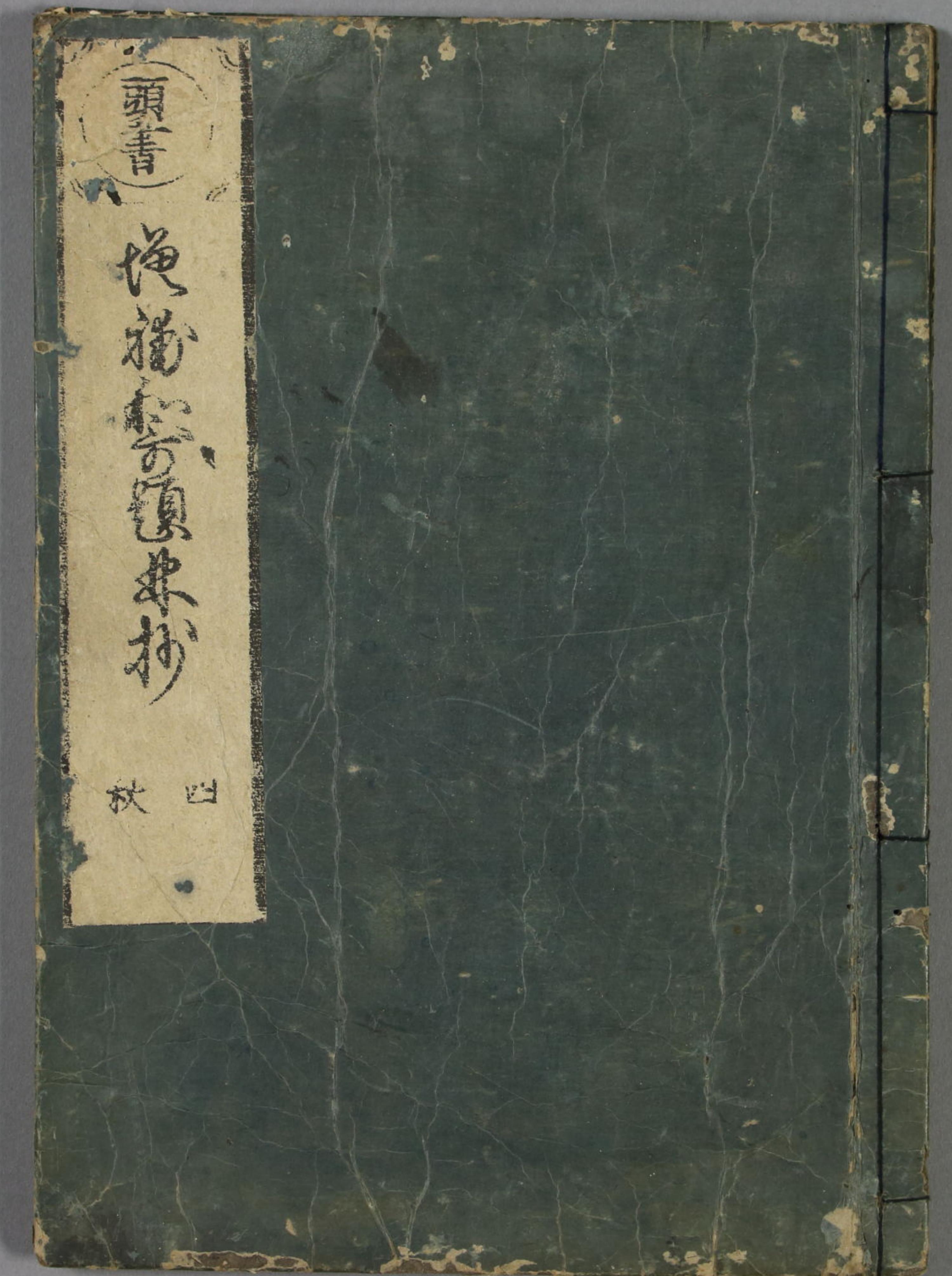


2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9

6 7 8



增補和寄類林抄中之一目錄

秋郊

立秋初十 立秋風

初秋月

初秋病

望絕子秋江早秋

浦早秋

早秋山

新秋雨 晴涼心

新涼秋

新涼秋

七夕月 七夕家

七夕移

七夕行

七夕秋 七夕別

七夕移

七夕行

七夕多

七夕言志

七夕行

里夕燒火 減女雲房

減女情別

七夕行

懷女情時 霽纖女懷

懷女情別

七夕行

懷牛女遠懷 烏鵲成橋

草花早

二空通音

系兒映月 系兒爲

新葉已

二空通音

莫不酒夜行酒秋也 秋也也

月夜聲紀

此名古客

秋七丁

森風者秋

森月

覽空秋

野經秋月

江秋

不遙秋

秋焚火

秋毛毫

秋變雲夢

立秋八丁

載秋

自秋

秋毛水

秋毛株

詩秋

約酒秋

秋映秋

疾歌露

秋移神

秋聖的席

秋心寄秋

立恩秋

女郎化十一

女郎已魔凡

女郎化布房

女市紀多

映女席也

歸女席心

徑女席已

名道女席也

翁小女席紀

情秀女慕也

薄十一

約酒薄

秋毛薄

店逐風

飛秋

暨逐薄

約酒薄

宋庭薄

古初病

舊似袖

病天通

約酒通

宋庭通

方壹龍凡

不奉病蓋

忌所蓋

約酒蓋

宋庭蓋

索華流

索華華花

鷹七丁

初守乃

正初乃

走初乃

初乃出

角あ乃

毛乃

書毛字乃

時乃

深和乃

乃止乃

四上乃

山家初乃

因家林乃

乃也乃

空失候乃

羣孩乃

張富乃

鹿十一

肢麻

夕麻

夜麻

鹿

康多支方

康多向方

秋之康

乃康字

康多支方

康多向方

康多向

日康

神方

枕方

家方玉

波葉方

霧方

亭源

曉方

山方

冥方

火方

河方東

海方西

方方方

因家方

旁源方

方渴忙

桜方二丁

家庵桜花

陵桜

广介模

桜紀花酒

蘇部孫

槿一日草

秋夕元早

涼山秋夕

海色秋夕

みつ秋夕

志村秋夕

冥中移

妙夕移

秋夕傷心

弱遠支丁

源長弱遠

冥中弱遠

冥弱遠

弱牽

甲斐弱引

武夷弱引

修法物角弱引

○立秋

秋ノ月・秋のこゑ立秋

秋

ヤモイ人。秋をまたり立秋

立秋

立秋の立秋

立秋

增補和琴題林抄中之

○おの秋あれば五候とからり  
うち三へてお秋を樂す。候す  
候すとまう。

うつゆ秋・候のことをか  
三へ月・けふのわ風・やまとを  
くち・候風の今り。手にき

雨りやと秋・喜風じと秋  
うみ海・まほれ海・あけ  
三秋・候風の候の候・秋  
月・秋と・月のなげ秋  
うのり秋と・國枝・秋秋  
うきをねりうき・候休・ちうと  
うき・候・うきの秋・秋れ  
うき・候秋の三うの風と  
うき・候・うきの風と

みそれす・うみの門かし  
あさく・初秋月・やま・まらん  
月・まづう天はくのれ秋との月  
いつうあさりうきやまくさん  
候・初秋鳥・あさくさん  
あさく・鳥の風・うきのあさくさん  
風・うき・うき・うき・うき  
候・初秋山・あさくさん  
風のととれぬとのうけよのうふ  
秋やきうさん・うきせのみ

初秋・候・うきの風と  
うき・初音・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と

豊後・初秋

筆

うき・初音・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と

候・初秋・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と

筆

候・初秋・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と

筆

候・初秋・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と

筆

うき・初音・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と

筆

候・初秋・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と

筆

候・初秋・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と

筆

うき・初音・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と

筆

候・初秋・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と

筆

候・初秋・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と  
うき・秋・候・うきの秋と

筆

お角さんおの日のおふくろ  
おもむかしをなすてそ  
あいさつをまつてゆのまき  
え有れ・金のねう合  
うなまき

〇七夕

お角さんおの日のおふくろ  
おもむかしをなすてそ  
あいさつをまつてゆのまき  
え有れ・金のねう合  
うなまき

二 七夕の日

つじくまのうのこ

秋七月七日の夜とてうるゝよし  
はまのまきをまつてゆのまき  
え有れ・金のねう合  
うなまき

秋七月七日の夜とてうるゝよし  
はまのまきをまつてゆのまき  
え有れ・金のねう合  
うなまき

お角さんおの日のおふくろ  
おもむかしをなすてそ  
あいさつをまつてゆのまき  
え有れ・金のねう合  
うなまき

角

お角さんおの日のおふくろ  
おもむかしをなすてそ  
あいさつをまつてゆのまき  
え有れ・金のねう合  
うなまき

お角さんおの日のおふくろ  
おもむかしをなすてそ  
あいさつをまつてゆのまき  
え有れ・金のねう合  
うなまき

つや・うさぎ・ちくの下り

鷺浦  
笠原

めセタ

ぬめすたたた  
ね

あせ浦と・うみやす・室幕

トモのあゆす・すもそもすもす  
七夕月

うとすとすとすとすとすとすとすと  
みま

うどく・かどく・まどく・すどく  
と・きの秋うのと秋うのと

鳥居月  
久この月うやうやうやうやうやうや  
わらひを

な秋・その秋・その秋・  
なう秋・まよ秋・むらの

うう秋・まよ秋・むらの

セタ鳥  
セタ鳥

めうりあひとくとくとくとくとくとく  
れ

うう秋・まよ秋・むらの

セタ秋  
セタ秋

めうけうけうけうけうけうけうけ  
れ

聖

日吉



○牛女アヒルニキハ牽牛ヒツキュー星  
星と女ヒトニメ牽牛星ヒツキュウジン七夕  
二の星ツカツカの日ヒてら

○うなぎのうなぎの虫害と  
うなぎ海うなぎもあて海うな  
うなぎうなぎうなぎよりう  
うなぎうなぎうなぎよりう  
うなぎうなぎうなぎよりう  
うなぎうなぎうなぎよりう  
うなぎうなぎうなぎよりう  
うなぎうなぎうなぎよりう

參集 懸牛女ツノウツクメ  
名主 あさの川アサノウかづひこうで村や舗  
参上 あさの川の川アサノウの川アサノウの川アサノウ  
懸牛女ツノウツクメを走アタマカニウム  
近松 佐原川サヘラワを走アタマカニウム  
天文十二年テンモンジニイツナニの御歳ミツ  
天文十二年テンモンジニイツナニの御歳ミツ  
天文十二年テンモンジニイツナニの御歳ミツ  
天文十二年テンモンジニイツナニの御歳ミツ  
天文十二年テンモンジニイツナニの御歳ミツ  
天文十二年テンモンジニイツナニの御歳ミツ

参上 驚怪成福カクハイセイフク  
政局セイク トシタリナムナウキの川アサノウ  
馬體成福カクハイセイフク トシタリナムナウキの川アサノウ  
政局セイク トシタリナムナウキの川アサノウ

参上 姑子ヒマツチ トシタリナムナウキの川アサノウ  
馬體成福カクハイセイフク トシタリナムナウキの川アサノウ  
政局セイク トシタリナムナウキの川アサノウ  
馬體成福カクハイセイフク トシタリナムナウキの川アサノウ  
政局セイク トシタリナムナウキの川アサノウ

## 二 草花

からくるれど

草の花アサガホがすうにと秋アキく見ミとつ  
草の花アサガホがすうにと秋アキく見ミとつ

○まひ  
氣節ヒジケツ秋アキ・あの初ハハに秋  
までの秋アキ小葉の葉ハナモトの葉ハナモト  
葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト

めとひよみびれひつみわくへよ  
じふくご壁カガタべりれらみのとあどよ

まほみ物カモノハシのとよゆのよ  
まほみ物カモノハシのとよゆのよ

小葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
の葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
の葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
の葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
の葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
の葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
の葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
の葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト

花カモモの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
花カモモの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
花カモモの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
花カモモの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
花カモモの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
花カモモの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
花カモモの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト  
花カモモの葉ハナモトの葉ハナモトの葉ハナモト

草花映月

名室

かくまのえ・月・ま・きの 内門  
寒・の・秋・あ・あ・い・れ・せ・音  
の・ま・と・下・か・ち・さ・る・寒  
う・の・も・え・の・セ・せ・れ・ぐ  
か・ふ・の・え・れ・の・せ・と・く・と  
の・く・り・ゆ・く・と・く・と・く・と  
か・の・え・れ・の・せ・と・く・と  
あ・き・た・ら・の・く・れ・け・れ・を・あ  
と・た・と・し・もの・下・ま・あ・う  
こ・れ・の・へ・あ・よ・す・れ・れ・あ  
て・ゆ・き・の・ま・と・り・が・秋  
ま・ま・秋  
わ・き・秋・す・と・せ・の・ま・だ・も・く・る・の  
じ・と・く・と・く・れ・れ・れ・の・下・ひ・い  
あ・き・ま・む・  
あ・や・そ・く・と・じ・若・川・へ・ゆ・  
ま・れ・れ・波・遊  
船・住・院

○秋・ふ・ふ  
・ま・ま・せ・ら・あ・ま・せ・葉  
川・其

モ・サ・ゆ・く・ろ・の・か・く・く・と・古・て・の  
底・く・う・つ・く・く・禁・の・う・く・高

の・よ・べ・れ・せ・う・そ・せ・う  
れ・の・よ・べ・因・の・社・あ・秋・浦・へ  
せ・う・れ・せ・う・と・く・せ・う・く・く・く・く  
ゆ・く・の・是・あ・く・く・く・く・く  
う・秋・浦・涼・ま・ま・ま・と・の  
や・く・の・は・せ・あ・く・の・せ・く・ふ  
金・山・あ・ま・ま・ま・ま

○秋  
か・ま・の・え・き・の・ま・ま・ま  
お・く・の・ま・の・下・が・ま  
ま・の・下・が・ま・の・ま・の・ま  
ま・の・下・が・ま・の・ま・の・ま

そ・く・く・く・く・よ・人・の・く・ろ・く・が・が・め・れ  
お・の・く・く・く・く・よ・人・の・く・ろ・く・が・が・め・れ

月がさづれ・月に夜のむ  
ゆくあらの夜のゆくよとつよと神のつ  
森のちいせの下がり  
あらん秋・森のあらん

月とすきし・うかへりもちよだかまに  
あらとめのく・やまとすたうつゆふ  
森のくわう・森のくわう  
森のくわう・森のくわう

月とすきし・やまとすたうつゆふ  
森のくわう・森のくわう  
森のくわう・森のくわう

月とすきし・やまとすたうつゆふ  
森のくわう・森のくわう

月とすきし・やまとすたうつゆふ  
森のくわう・森のくわう  
森のくわう・森のくわう

月とすきし・やまとすたうつゆふ  
森のくわう・森のくわう

月とすきし・やまとすたうつゆふ

壇

即興秋風

鳥は

月

即興秋風

鳥は

1

○塔林中之一

卷八

・りかのあら・まづうる長谷

聖

は柏木院

佐吉の内村・久藤・

大社

森山も水

は柏木院

のちをさうと・森のとひまた

大社

森山も水

は柏木院

うやの秋もさうとひまた

大社

森山も水

は柏木院

卷之二

内宮の事は御心の事なり  
た。嘗てのちにとて是をひく  
とくのすゞしもかのえ  
ありとともり御ふもゆき  
あひとるう。かく地久く  
あよりて、あまくまづりとくま  
あどし。うりあれもわくを  
もじく。かみよもれとくまく  
のく。あよもれとくまく  
え。秀才。かく。御上野  
渡浦。女房花魔月  
お堂

卷之三

あらゆるすよのゆうき  
うあらゆるのを。やうふるのみ  
ふうふく。やくはあぐる  
のをあふも使うるも良  
わらふれ。またのうれのが  
くもれまつと。やりとて  
従体うる。まうれ多  
あくふひあくとん。あくとん。ゆる  
わくふひあくとん。あくとん。ゆる  
きのうそり。きのゆが  
くもれま。あくふひあくとん  
まうれま。あくふひあくとん  
まうれま。あくふひあくとん

あふとひこくうよ  
袋森便りあむひ  
すのとくれのあか  
うちじんもくくら  
あきと女あみ  
わ

わのふ・ひよーき・うなぐ・じ  
もふ・かねむ・もと天の川  
やこ・うね・たゆゆめは  
みよく・よ・くをすうの  
地うさぎ・あはき・まく所  
・よ・神かひ・うゑみ  
・まか・まちあらむ月が  
なつま

○前

一 もくあたむ・月のと義  
きの月・おれりの月・くわん  
きく・どめの月・まく  
の月・あかんの月・くわん  
うやの月・月の月・  
の月・そしりの月と月

ト・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月

月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月

月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月

月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月

地のかりふくとすやふうと  
ありこみみうととてくにふ  
葉下すめふ  
とくとてえられず人のほもみ  
ちゆめやみくやねへまく移し  
桂家女夷じ  
通後  
あくゆまひとうとくとくへ  
うづく風からせ人の松雪

七 菩

まく たり やまと とき

あのすとむりひくふかふもんとくわ  
いとすと、このりで、月ようととくわ  
ひとにきんとあひととくわく  
ひとにきんとあひととくわく

うづく風またねの月の月  
月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月

月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月

月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月

月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月

詠

月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月

月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月

詠

月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月  
月の月・月の月・月の月

あら尾飛のまのたま・白鳥  
のあた・毛衣が袖ぬだれ  
袖・ひとと神・あまのあた・お  
の毛鳥あびき・お死が身 祭  
おののほ・もむれよゆくお衣  
のむ・とねだれか・あじく  
がひりのま・すくのま・

つあふ不

一・女皇・毛取のたま・と  
一・ゆのまのま・鳥へのま・金  
か底のま・とみづ・と安 吉  
湯を食らう・わざうとの  
小さ・こ・そ・や・く・春・ま  
壁うねせ・う・秋・う・春・ま  
とを・ら・せ・ま・まの・ま・

花すと・神のま・や・と・まと  
ひ・よ・毛・ま・ま・ま・ま・  
う・う・う・神・ま・ま・ま・  
ま・ま・の・す・く・と・人・と  
古・初・房 月  
一・り・ま・ま・ま・ま・ま・  
底・毛・よ・め・ま・り・秋・ふ  
神・や・尾・く・ま・ま・ま・  
秋・風

あら飛・ひこ・め・う・び・  
う・う・う・ま・ま・ま・ま・  
の・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
の・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
の・ま・ま・ま・ま・ま・ま・

松井

ああ酒

ほ・や・く・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・

枝葉院

あら飛・ひこ・め・う・び・  
う・う・う・ま・ま・ま・ま・  
の・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
の・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
の・ま・ま・ま・ま・ま・ま・

松井

ああ酒

ほ・や・く・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・

○荷蓋

さく

さく

のま

松井

ああ酒

ほ・や・く・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・

あら飛・ひこ・め・う・び・  
う・う・う・ま・ま・ま・ま・  
の・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
の・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
の・ま・ま・ま・ま・ま・ま・

松井

ああ酒

ほ・や・く・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・

八 荷蓋

さく

さく

のま

松井

ああ酒

ほ・や・く・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・

あら飛・ひこ・め・う・び・  
う・う・う・ま・ま・ま・ま・  
の・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
の・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
の・ま・ま・ま・ま・ま・ま・

松井

ああ酒

ほ・や・く・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・  
ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・

室除

まよひかう。あがむせんのや  
ふ。よひぐ。

○荷葉ふわ

草集 四季詩卷

野鳥

らうれや。小舟をひのまふ  
うの風。たま。から。ゆめの  
まよひのあは。よひにま  
ふくの風。

九 蘭 うらぐる

○蘭

うきの森をぬまよひ  
うきびもす。うき金。た  
まよひのあは。よひにま  
ほねびじ。うきえひ  
うきぬよ。うきの葉。なが  
方の形。うきの葉をうき

うきの森をぬまよひ  
うきびもす。うき金。た  
まよひのあは。よひにま  
ほねびじ。うきえひ  
うきぬよ。うきの葉。なが  
方の形。うきの葉をうき

○葉

ゆのよひよひのあり。とまよひ  
うきぬよ。うき金。た  
まよひのあは。よひにま  
ほねびじ。うきえひ  
うきぬよ。うきの葉。なが  
方の形。うきの葉をうき

ぬよ。うきの葉をうき  
うきぬよ。うき金。た  
まよひのあは。よひにま  
ほねびじ。うきえひ

雅世

○荷捕 月あ葉

日 月あ葉

秋物の花をぬりとひく

草集

月あ葉

日 月あ葉

秋物の花をぬりとひく

日 月あ葉

秋物の花をぬりとひく

日 月あ葉

秋物の花をぬりとひく

日 月あ葉

秋物の花をぬりとひく

秋蘭 うきぬよ。うき金。た  
まよひのあは。よひにま  
ほねびじ。うきえひ

秋蘭 うきぬよ。うき金。た  
まよひのあは。よひにま  
ほねびじ。うきえひ

秋蘭 うきぬよ。うき金。た  
まよひのあは。よひにま  
ほねびじ。うきえひ

秋蘭 うきぬよ。うき金。た  
まよひのあは。よひにま  
ほねびじ。うきえひ

二のちゆハ蘭のゆくすれ  
よつすれこみへかしたうよ

ハニまのふりてうじへ

○葉あああ

おき思今まの風ふうかふ  
青音をゆきの風ふうか風

むすせすのとがまがま

松

うせへせみまくまくまく

うらはまくまくまくまく

○鳥

初鳥ひだらうねみの鳥

松

あとのとまくら鳥

うわあうやくらひあく

十

鷹

うわく

つま・竹脚の角をうぶ  
またねチカラとお地元へ  
また筋筋をぬるるあう  
うづくめあるるふのうづく  
ねうづくめあるるふのうづく  
つま・竹脚の角をうぶ  
またねチカラとお地元へ  
また筋筋をぬるるあう  
うづくめあるるふのうづく  
ねうづくめあるるふのうづく  
つま・竹脚の角をうぶ  
またねチカラとお地元へ  
また筋筋をぬるるあう  
うづくめあるるふのうづく  
ねうづくめあるるふのうづく  
あふ・うづくめあるるふのうづく  
の波よがう祖のよどぎ  
うづくめあるるふのうづく  
のうづくめあるるふのうづく  
きか玉れ・かと紙くらま

増補

○書

かみ

うきよ。四十七のうきよの  
みちよ。かづつゝみのまの

季體を初房

家有

初や。なあまくけまく

秋

月かる

家有

季體を初房

初房幽

月かる

家有

季體を初房

秋

月かる

家有

卷之三

〇十六

同上

水滸傳

・うやのうとくは、和歌、書道、音楽  
・書道、うつわのほか、うきよ  
・うきよのうとく。うきよのうとくのまの  
・うきよのうとく。うきよのうとくのまの  
・うきよのうとく。うきよのうとくのまの  
・うきよのうとく。うきよのうとくのまの  
・うきよのうとく。うきよのうとくのまの

内集  
田家秋月  
水注道  
つゆのうたうひそえのよき風す  
ゆくれよふくろ乃のち  
草木もく乃  
鳥もく、鳥の玉に北あ  
さのとじとやう秋のり  
登  
唐庚  
家唐  
きくのくたうをかく今ひまの

すまの浦。は海。うらは海。へつ  
川。かはづか。山。とく。山  
尺。あやの田牛。えき。わが里  
えぬ。がくの里。すみ。うら  
あらび。あらび。か。ち。あらび  
のち。のれ。ハ義。武。が。だ。き  
只。そ。れ。か。ら。が。ひ。ら。の。要  
こ。ち。か。ら。と。う。よ。わ。く。べ。み。え  
わ。よ。い。海。き。と。あ。う。タ。く。れ。ハ。山

もくもくめぐらのさむを  
を失ひ候る  
中そぞりにありひやうぬくゆく  
やもとをあづかひる  
羅麻麻乃  
まよどり袖も窓けまくわざひる  
名とたとをもとすくわざ  
根筋乃  
根え  
れゆきゆきとよひり  
れゆきゆきのをすゝ

事をこゆる所とよりぬよ  
とありとえ又九月十九日  
初九月十九日

十一  
鹿

卷之三

は  
と  
た  
今  
ふ  
じ  
も  
ひ  
も  
の  
の  
の  
の  
老  
り  
み  
ら  
せ  
ぬ  
と  
の  
山  
一  
か  
く  
と  
あ  
な  
て  
や  
林  
と  
き  
る

ぬ太根麻・あうあう・麻の  
友・争ひに野麻・麻のさなぐ・麻  
をうへ・麻のタガ・建保方々・麻の  
初も秋の麻のめ・され草ぞ  
・のうつる事・ひづち毛の  
康・さくさくと松葉草・芳麻

・あか山・猿魚の毛よし名古

のあ・あがたの麻・あらの島び  
き・あご三・じくわ・あごの麻

・あのかまう・竹の支分く  
う・麻・妻の麻の妹・縫物の  
麻をうね・麻の毛毛・小麻

の落葉の跡をひこすてれて  
け・おおやかづら・うそとててゆ

・のりかく・あひるのくもとてて  
け・おおやかづら・うそとててゆ

・のりかく・あひるのくもとてて  
け・おおやかづら・うそとててゆ

・のりかく・あひるのくもとてて  
け・おおやかづら・うそとててゆ

・のりかく・あひるのくもとてて  
け・おおやかづら・うそとててゆ

・のりかく・あひるのくもとてて  
け・おおやかづら・うそとててゆ

月あ麻  
花房の月

月あ麻

被補  
花房の月

月あ麻  
花房の月

被補  
花房の月

月あ麻  
花房の月

被補  
花房の月

月あ麻  
花房の月

被補  
花房の月

月あ麻  
花房の月

あまうおふる・めぐりとよす

野麻

月あ麻

被補

月あ麻

被補

月あ麻

被補

月あ麻

さとうのいははひ・秋の秋の  
三筋・茎ひとめ・ゆるぎむすんで  
とてて・野麻のとてあは

京集  
野麻

月あ麻

被補

月あ麻

被補

月あ麻

被補

月あ麻

さとうのいははひ・秋の秋の  
三筋・茎ひとめ・ゆるぎむすんで  
とてて・野麻のとてあは

京集  
野麻

月あ麻

被補

月あ麻

被補

月あ麻

被補

月あ麻

さとうのいははひ・秋の秋の  
三筋・茎ひとめ・ゆるぎむすんで  
とてて・野麻のとてあは

京集  
野麻

月あ麻

被補

月あ麻

被補

月あ麻

被補

さとうのいははひ・秋の秋の  
三筋・茎ひとめ・ゆるぎむすんで  
とてて・野麻のとてあは

京集  
野麻

月あ麻

被補

月あ麻

被補

月あ麻

被補

月あ麻



○せうの内

○せうの内・せうの内・せう

## 十二野分

歌うはとくの風のあがり・野のまよす  
よもやからずすじゆめ  
おひののふるせりすす・さかの花むらわ  
やくのあがへ・あへのせ  
うらはれすくせらむかと  
せうのせう・せうのせうと  
せうのせう・せうのせうと  
せうのせう・せうのせうと

歌うはとくの風のあがり・野のまよす  
よもやからずすじゆめ  
おひののふるせりすす・さかの花むらわ  
やくのあがへ・あへのせ  
うらはれすくせらむかと  
せうのせう・せうのせうと  
せうのせう・せうのせうと  
せうのせう・せうのせうと

あはり・風のうよたみう  
うりてよよくつよくやあらん・  
歌うはとくの歌うはとくのうよたみう  
歌うはとくの歌うはとくのうよたみう時  
せうのせう・せうのせうと

あはり・風のうよたみう  
うりてよよくつよくやあらん・  
歌うはとくの歌うはとくのうよたみう  
歌うはとくの歌うはとくのうよたみう時  
せうのせう・せうのせうと

ま本ととぞ・まづのり  
まづのり・まづのり  
のわ・うとう・ものと  
うとう・月と・おもね  
ねとく

ま本ととぞ・まづのり  
まづのり・まづのり  
のわ・うとう・ものと  
うとう・月と・おもね  
ねとく

○あ

參じよ・おとよ・あひよ  
あひよ・わう・參のひよ  
みどり・あひ・參のひよ  
うとう・あひ・參のひよ  
うとう・參のひよ・あひ  
うとう・參のひよ・あひ  
うとう・參のひよ・あひ  
うとう・參のひよ・あひ

参じよ・おとよ・あひよ  
あひよ・わう・參のひよ  
みどり・あひ・參のひよ  
うとう・あひ・參のひよ  
うとう・參のひよ・あひ  
うとう・參のひよ・あひ  
うとう・參のひよ・あひ

・おうへう・あめなき・あり たけいふじりとみま・秋のせう  
う・鳥とひ・あそく・あぶ ゆよハ神り・さかくがまととひべー  
せと・ちの力・かづのらうり

・鳥のさぐり・あはる・あひ ことじだう・へす・ちのう・とがど  
り・あはれを・きのる・あくらうのう・やうふ・めんきゆうか  
のひかわぐのあ・あそか とし

・あの下か・あめりあま  
とのあ・をのあ・地のとれ  
あ・あみけ・あ・山のこ審  
えの下た・あそか・あ  
のあひ・あひのとものま  
え・あひ・ひ・あひのとれ  
・あひのあ・あひのとれ  
あ・あひのうだ・野のじきあ・と  
ちのじのじよ・あひのうだ

鶴浦 月暎寫

秋

・月・月のひ・ひ・秋・秋・夕つ

・秋の夕・秋の夕・秋の夕

鶴浦

月暎寫

秋

文政

高麗

・秋の夕・秋の夕・秋の夕

・秋の夕・秋の夕・秋の夕

・秋の夕・秋の夕・秋の夕





旁庵集

附志

まうりのうらむとくに代のとあきと下  
ケヨシタマツトハハセ乃モカ

## ○種

## 十六種

花のわく・多のわく・ね  
スのあ・ての花・花の光  
お子の氣・うるお子  
娘とやめや・うれし娘  
あのかな・まの娘  
あ・わ・き・花よ・ま  
えのうか・うるお花  
のうひ・あ・さやうえ・あ  
まき・一時・娘の曾  
あ・そ・そ・そと・うひ・ほ  
ぬ・おの・だ・まの色  
あ・そ・ほ・ら・まを・ま

うと・の・花の曾

うと・し・角

○秋夕  
秋の夕べにうれば秋の神々  
十六秋夕

セヌタウ御みタマリ

シテタキタス。シテシテ。おほきこの木くに林たりのまゝ。シテ  
シテ。秋の夕べにうれば。シテ。木くに木と木をせしに。林てふかくと  
うれば。木くに木をせしに。林てふかくと。シテ。秋の夕べにうれば。  
シテ。木くに木をせしに。林てふかくと。シテ。秋の夕べにうれば。  
シテ。木くに木をせしに。林てふかくと。シテ。秋の夕べにうれば。  
シテ。木くに木をせしに。林てふかくと。シテ。秋の夕べにうれば。  
シテ。木くに木をせしに。林てふかくと。シテ。秋の夕べにうれば。  
シテ。木くに木をせしに。林てふかくと。シテ。秋の夕べにうれば。  
シテ。木くに木をせしに。林てふかくと。シテ。秋の夕べにうれば。  
シテ。木くに木をせしに。林てふかくと。シテ。秋の夕べにうれば。  
シテ。木くに木をせしに。林てふかくと。シテ。秋の夕べにうれば。

秋の夕べにうれば。秋の夕べにうれば。秋の夕べにうれば。  
秋の夕べにうれば。秋の夕べにうれば。秋の夕べにうれば。  
秋の夕べにうれば。秋の夕べにうれば。秋の夕べにうれば。  
秋の夕べにうれば。秋の夕べにうれば。秋の夕べにうれば。  
秋の夕べにうれば。秋の夕べにうれば。秋の夕べにうれば。

海島秋夕

源魚

えりゆの。我がひうわが身よ  
ハを失は。秋の夕べあはるの  
うれすうよあらば。秋の夕べ  
か・秋の夕べのあはるす  
房の夕べ・あくわき秋の夕  
べひ・秋の夕べの夕べ  
ひうくひとあはるをのぞむ  
秋の夕べの夕べの夕べ  
まほの夕べの夕べの夕べ  
うととととととととととと

キ

海島

うりきこのいつくにあはる  
うへむしの秋の夕べゆふくに  
あら秋夕

三五集

歌浦

たま秋夕

歌浦

秋夕

歌浦

秋夕

秋夕

吉玉

かくにくの夕べのゆふくに  
うとうととととととととととと

○約定

卷之二

十七  
鴻達

卷之三

卷之三

九  
四

うの爲めにやうにやうにやうに

物・其の如き・それがの如き  
の如き・やがてもどり・やがても

卷之三

心の處にまづひ  
奥のやうR・やうRのぬくもり

の爲めに、おまかせを  
する。とあれあげの約

の爲めに、この間の事は、

風の音  
草木の音

卷之三

卷之三

あか  
りて  
あく

山子之少

い や も ら

うよゆきとく

مکالمہ

Emerson

ああああああああ

卷之三

卷之三

こぬひうそく  
あづまのうそ

十七 猶庭  
十八

一年のねむをめぐらすとま

物語

内大臣

もやうの所をよそえます

あふの内

物語

さん天をあがよおゆうと

かくもひきせの度よりうかり

物語

ぬを下りて今へりら月の

甲斐物語

入金物語

ありけりやがたてば

秋の田代

物語

あかとひなを事ひぬ

武あ約川

物語

とひまがわうふうがゆ

じくせとうけいのりくわ

物語

二とくをむだなみたる月の

信濃物語

信家物語

ほのまをまこととある

ひときよとくわよだらくあくの

物語

増補水紋歌林詩中之一

